

## トップメッセージ

# コロナ後の社会を見据え さらなるイノベーションによって、 「食料・水・環境」分野で 世界に貢献していきます。



クボタグループは、2020年2月、創業130周年を迎えました。

1890年の創業以来、水道用鉄管による近代水道の整備、農業機械による食料増産と省力化など、暮らしと社会に貢献するさまざまな製品を世に送り出してまいりました。

そして現在、世界は新型コロナウイルスという感染症により未曾有の危機に晒されています。

今こそクボタグループは、「食料・水・環境」を一体のものとして捉え、優れた製品・技術・サービスを通じて社会の課題を解決し、地球と人の未来を支え続けることが私たちの使命と考えます。

クボタグループは、「グローバル・メジャー・ブランド クボタ(GMBクボタ)」の実現をめざしています。それは、最も多くのお客様に信頼され、最も社会に貢献できる企業になることです。常に世の中視点で未来を「想像・予測」し、世界に先駆け、課題を「発掘」そして解決していくという「On Your Side」の精神でさらなるイノベーションを進め、クボタグループ一丸となって「One Kubota」として臨んでいきます。

### ■ クボタグループのめざすもの

#### イノベーションを通じ、製品機器から トータルソリューションへの事業転換へ

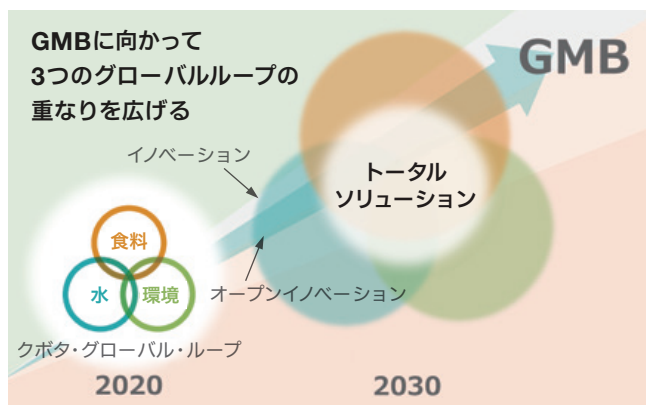
今日、世界経済は大きな変革期を迎えています。クボタグループが事業領域とする「食料・水・環境」の分野においても、向こう10年を見渡せば大きな事業環境の変化が予想され、従来のような製品の販売やサービスだけでは生き残れなくなると考えています。

そうした中、今後の成長のカギとなるのは、イノベーションだと思います。今までは2～3年後に向けた製品開発が中心でしたが、今後は10年後、20年後の変化を予測した製品開発、さらには新たなサービスや事業の創出が必要になってきます。そのための研究開発体制の基盤整備として、最先端技術の開発拠点を大阪府堺市に新設しようとしています。今後はここを中心として世界各地の開発拠点との連携を強化し、環境変化の波に対応できる体制に発展させていく構想です。また、イノベーションセンターをグローバルに展開し、スタートアップ企業や異業種企業、大学、研究機関などの社外パートナーとのオープンイノベーションによる新たな製品・技術・サービス・事業の創出にも力を注いでいきます。

そしてこれらを結集し、トータルソリューションを提供できる企業をめざしたいと考えています。日本の農村を例にとりますと、高齢化や過疎化、それにともなう農業の人手不足など多くの課題を抱えています。クボタグループは、農業経験のない人でもスムーズに就農できるよう、農業に必要なさまざまなデジタル情報を提供する営農支援システム「KSAS(クボタスマートアグリシステム)」(P14参照)によるサービスを行っています。ここではすでに農地ごとの収穫量、肥料散布情報、機械の稼働状況、位置情報などを提供していますが、将来的には農機のシェアリングや収穫物の販売情報などさまざまな情報を含めたアグリプラットフォームの構築を進めていきます。さらに、これに水環境事業の技術や製品も取り入れていくことで、地域一帯のトータルソリューションが可能になります。水田の水量を自動管理するシステム(P16参照)やメタン発

酵技術を利用して生み出されたエネルギーを活用する農業なども提案できるのではないかと考えています。

このような幅広い事業を、日本のみならずグローバルに展開している点がクボタグループの強みです。「食料・水・環境」の3つの「クボタ・グローバル・ループ」の輪において、密接に結びついたテーマとして重なる領域を拡げ、やがてはその輪が一つになることこそがクボタのめざす姿であると考えています。あらゆる部門が連携して新しいビジネスを創造できる体制を構築し、クボタ独自の社会貢献につながる事業や技術の開拓を進めていきます。



## SDGsへの貢献に向けて①

### 現地の課題やニーズに寄り添った事業を展開

事業活動を通じて、世界の食料問題、水問題への貢献を加速させるためには、新しい事業に加え、新たな地域にも挑戦していかねばならないと考えています。

SDGsの「飢餓をゼロに」という目標に対する取り組みとして、農業の機械化を促進していく必要があるインドやアフリカにも注力します。例えばアフリカでは、2030年までに米の生産量を倍増させ、自給率を引き上げる目標が打ち出されており、クボタグループでは、まずは耕うん機を普及させることから始めています。最近では、機械化により作業効率が上がり、収穫ロスも低減されることから、トラクタやコンバインの需要も高まっており、それらの販売・普及を通じて食料増産に寄与していきたいと考えています。

また、SDGsの「安全な水とトイレを世界中に」という目標に対しては、上下水道のインフラ整備が必要な地域において、パイプシステム・水処理施設に関する製品・技術・サービスを通じて、その整備に貢献していきます。

## SDGsへの貢献に向けて②

### 「気候変動への対応」にも意欲的に取り組む

気候変動は、気温上昇による耕作適地のシフトなど農業形態の変化をもたらすため、クボタグループにとっても大きなリスクです。2020年1月、クボタグループは、気候

変動関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言※に賛同しました。これまでも厳しい排出ガス規制をクリアするクリーンなエンジンを開発・製造してきました。今後はさらにCO<sub>2</sub>排出量の少ない製品の開発に力を注ぐ一方で、農業機械・建設機械の電動化や水素などを燃料とした製品の研究開発も行っていきます。また、水環境事業は、世界の農業を気候変動や自然災害に強い産業に変えることができる可能性を持っています。灌漑普及率が低く干ばつや大雨などに農産物の生産量が大きく左右されるからです。これからは気候変動の影響を受け、砂漠化が進む農地が増えることも予想され、農地の水管理に寄与することは、クボタグループの今後の使命と言えます。

※ 企業に対し、気候変動への対応状況や事業への影響等の自主的な情報開示を推奨する提言

## ステークホルダーの皆様へ

### 創業時もこれからも、 社会課題に応え続けるクボタ

クボタグループの歴史は、創業者の久保田権四郎が明治半ばの近代化の中で、当時蔓延していた感染症コレラから人々を救いたいと日本で初めて水道管の国産化を成し遂げ、量産を開始したことに始まります。以来130年間、近代水道への貢献をはじめ、発動機や農業機械、環境処理技術の開発など、いつの時代も社会の課題に真摯に向き合い、「命を支えるプラットフォーマー」であり続けてきました。

冒頭申し上げました通り、世界は新型コロナウイルスという感染症により未曾有の危機に直面しています。このような危機に対し、クボタグループはこれからも「命を支えるプラットフォーマー」として、さらなるイノベーションを生み出し、「食料・水・環境」という人々の基盤となる事業分野の総力を結集し、この世界規模でのパラダイムシフトに柔軟に対応できるレジリエントな経営をめざしてまいります。

そして、クボタグループの製品・技術・サービス・ソリューションが必要だと思っていただける誠実な企業であり続けるため、ESG(Environment = 環境、Social = 社会、Governance = 企業統治)の観点も強く意識し、CSR経営のレベルアップを図りながら、真の「GMBクボタ」を実現していきます。

今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2020年5月

株式会社クボタ 代表取締役社長

北尾 裕一